

罪なき死刑

シリーズ～続 福音の力～

2021/3/14

これまでのあらすじ

- エルサレム入城(日曜日)
 - 歓喜の声に迎えられる
- 神殿で教える(月～木曜日)
- 最後の晩餐(金曜日)
 - 新しい契約を結ぶ
- ユダの裏切り
- オリーブ山での祈り
 - 祈りの格闘に勝利
- 捕らえられ大祭司邸へ連行される

最高法院(大祭司邸)で

人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペトロは遠く離れて従った。

さて、見張りをしていた者たちは、イエスを侮辱したり殴ったりした。そして目隠しをして、「お前を殴ったのはだれか。言い当ててみろ」と尋ねた。そのほか、さまざまなことを言ってイエスをののしった。

夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まった。そして、イエスを最高法院に連れ出して、「お前がメシアなら、そうだとするがよい」と言った。

イエスは言われた。「わたしが言っても、あなたたちは決して信じないだろう。わたしが尋ねても、決して答えないだろう。しかし、今から後、人の子は全能の神の右に座る。」そこで皆の者が、「では、お前は神の子か」と言うと、イエスは言われた。「わたしがそうだとはい、あなたたちが言っている。」人々は、「これでもまだ証言が必要だろうか。我々は本人の口から聞いたのだ」と言った。(22:54,63-71)

最高法院(大祭司邸)での告発

- 侮辱されるイエス様
 - まるでイエス様の特別な力を擲擄するような仕方
- 「最高法院」
 - 70名で構成されるユダヤの最高決定機関
 - 政治的・宗教的・法律的な事柄が決定される
 - 有罪にするためには2名以上の独立した承認を必要とする(本来は弁護人が付けられる)
- メシアであり神の子であるか否か
 - 「わたしがそうだとは、あなたたちが言っている。」
 - “あなたたちが認めたではないか”という意味？

ピラトによる審判(1回目)

そこで、全会衆が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。そして、イエスをこう訴え始めた。「この男はわが民族を惑わし、皇帝に税を納めるのを禁じ、また、自分が王たるメシアだと言っていることが分かりました。」そこで、ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」とお答えになった。ピラトは祭司長たちと群衆に、「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」と言った。しかし彼らは、「この男は、ガリラヤから始めてこの都に至るまで、ユダヤ全土で教えながら、民衆を扇動しているのです」と言い張った。

これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。(23:1-7)

ピラトによる審判(1回目)

- 大祭司らによる訴え
 - ユダヤ人には死刑に権限は与えられていない
 - 虚偽の理由(扇動・税金・王)による訴え
- ピラトはローマ総督
 - 反乱を繰り返すユダヤ人を治めるためにユダヤに遣わされた残忍な行政長官(紀元26-36年)
 - 「何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。」13:1

ピラトによる審判(1回目)

- ピラトによる尋問(質問)
 - 「お前がユダヤ人の王なのか」
 - 「それは、あなたが言っていることです」
＞あなたの言う通り／あなたの決めること
- ピラトは無罪を宣告
 - 「わたしはこの男に何の罪も見いだせない」
 - ユダヤ人たちが引き下がらないので、イエス様がガリラヤ人であることが分かると、たまたまエルサレムに来ていたヘロデの所へ送った
 - 責任を回避しようとした

ヘロデのもとで

彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。(23:8-12)

ヘロデのもとで

- **ヘロデ・アンテパスについて**
 - ローマ帝国の支配下でありながらガリラヤとペレヤの国主の地位にあった(ピラトとは敵対関係)
 - 「しかし、ヘロデは言った。『ヨハネなら、わたしが首をはねた。いったい、何者だろう。耳に入ってくるこんなうわさの主は。』そして、イエスに会ってみたいと思った。」9:9
- **ヘロデを無視されるイエス様**
 - 「いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。」
 - 侮辱した上「派手な衣を着せてピラトに送り返した」
 - 祭司長たちの訴えを退けた

ピラトのもとで(2回目)

ピラトは、祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、言った。「あなたたちは、この男を民衆を惑わす者としてわたしのところに連れて来た。わたしはあなたたちの前で取り調べたが、訴えているような犯罪はこの男には何も見つからなかった。ヘロデとても同じであった。それで、我々のもとに送り返してきたのだが、この男は死刑に当たるようなことは何もしていない。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」

祭りの度ごとに、ピラトは、囚人を一人彼らに釈放してやらなければならなかった。しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。

このバラバは、都に起こった暴動と殺人のかどで投獄されていたのである。ピラトはイエスを釈放しようと思って、改めて呼びかけた。しかし人々は、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けた。ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。(23:13-25)

ピラトによる3度の弁護

- ヘロデから送り返されて
 - 「この男は死刑に当たるようなことは何もしていない」
- バラバと天秤にかけて釈放しようとするが
 - 過越祭の“恩赦”を利用してイエス様を助けようと
 - 「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。
- 三度目の無罪主張
 - 「この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。」
 - 「人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。」

3つの最高権力による判決

- 最高法院
 - ユダヤの律法に背く行為は認められない > 偽証
- ヘロデ王
 - (祭司長たちの訴えに当たる犯罪はない)
- ピラト
 1. わたしはこの男に何の罪も見いだせない
 2. この男は死刑に当たるようなことは何もしていない
 3. バラバを引き合いに出して釈放しようとする
 4. この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった

3つの最高権力による判決

- 最高法院

- ユダヤの律法に背く行為は認められない > 偽証

- ヘロデス

- (祭司長)

- ピラトス

1. わ

2. この男は死刑に当たるようなことは何もしていない

3. バラバを引き合いに出して釈放しようとする

4. この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった

それを証明するために
彼らは備えられた

イエスは完全に
無罪であった！

イエスはなぜ死刑になったのか

- イエスを殺したいほど憎んでいた人々
 - 「祭司長たちや律法学者たちは、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考えていた。」22:2
- イエスに期待と行為を寄せていた民衆
 - 「民衆は皆、話を聞こうとして、神殿の境内にいるイエスのもとに朝早くから集まって来た。」21:38
- その民衆が
 - しかし、人々は一斉に、「その男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。
 - しかし人々は、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けた。
 - ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。

イエスはなぜ死刑になったのか

- イエスを殺したいほど憎んでいた人々
 - 「祭司長たちや律法学者は、イエスを殺すにはどうしたらよいかと考へておりました。」
- イエスに期待を寄せた民衆
 - 「民衆は皆、話を聞こうとしてその境内にいるイエスのもとに朝早くから集まっておりました。」21:38
- その民衆が
 - しかし、人々は一斉に「この男を殺せ。バラバを釈放しろ」と叫んだ。
 - しかし人々は、「十字架につけろ、十字架につけろ」と叫び続けた。
 - ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。

罪なき死刑の意味

彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。

イザヤ書53:5-6